

II パネルディスカッション 2. 循環器疾患について

三井記念病院 循環器センター外科

古 田 昭 一

循環器疾患を心臓、四肢末梢血管の疾患に分け、夫々の疾患群について考察してみたい。単位時間あたりの酸素消費量の最も多い心臓の疾患と、最も少い四肢末梢の血行障害による疾患群とに対する高圧酸素療法の実際は、異なったものであることは明らかである。

先づ高圧酸素療法の実施を前提として、これら疾患群の病態生理の特色を考察してみたい。

次に、現在行なわれている本治療法の評価と将来の展望とについて、次の如き項目について述べてみたい。

- 1) 心筋の低酸素状態、急性の心原性、または心外性の原因により、心臓のポンプ作用が低下し、心筋の低酸素状態となり、さらに心機能が低下し、悪循環が形成され、循環虚脱の状態になった場合の適用である。器質的な原因としては、心筋硬塞、機能的な原因としては、各種のショック状態での心機能の低下している状態で、高圧酸素療法 of 最も良い適応である。諸家の成績を、治療条件を考慮して考察してみたい。
- 2) 血行遮断の許容時間、心臓手術を目的として、高圧酸素加 (hyperbaric oxygenation) による溶解酸素量を増量することで、果して循環遮断時間を効果的に延長出来るか、成績について考察する。
- 3) Cardiac oxygen paradoxical phenomena, 酸素消費量の多い臓器では低酸素状態から過酸素状態への急激な移行は、必ずしも治療的ではない。実験成績と、臨床実施の工夫について述べてみたい。
- 4) 末梢血管の慢性閉塞性疾患に対する本治療法の評価、単独療法よりは他の治療法の併用が、より効果的である。併用の実際について述べてみたい。